

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における加美小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・加美小学校では、5年生 89名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立加美小

学校

児童数

89

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.93	17.20	31.43	28.60	36.17	9.49	147.44	18.56	46.44
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.61	16.61	37.51	27.19	28.31	9.92	141.31	12.38	48.16
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

体力合計点を全国平均と比較すると、男女ともに5ポイント以上低いことがわかる。男子においては、全ての種目で全国平均を下回っている。種目別で比較すると、男女ともに反復横跳びと20mシャトルランが全国平均を大きく下回っている。

総合評価では、D・E区分（下位層）の児童が、50%以上であった（男子…58.8% 女子…56.3%）。つまり、運動を苦手とする児童が学年の半数以上である。

質問紙項目「運動やスポーツをすることは好きですか」では、肯定的回答の児童が男女ともに85%程度であった。さらに、「1週間の総運動時間が60分未満」の児童の割合が男女ともに30%弱であった。どちらの質問紙項目とも、総合評価D・E（下位層）の児童が当てはまることが分かった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本年度は、体育科学習の年間指導計画を見直して、全ての運動領域をまんべんなく実施できるようにした。また、PTAの協力のもと、一輪車や竹馬など運動遊びの器具の充実を図った。さらに、年間を通じて体育科研修を3回実施してきた。しかしながら、気候変動とりわけ暑さ指数の上昇で水泳学習がほとんどできなかったことに加えて、昨年度まで実施していた「かけ足週間・かけ足大会」を実施しなかった。

改めて、体育科学習の年間計画を見直す必要がある。また、体育科学習の進め方や児童の見取り方などの授業づくりを研修して、運動の楽しさや喜びを児童が十分味わえるように工夫する必要がある。また、体育的行事の充実だけでなく、休み時間や放課後など校庭で遊ぶときの環境整備も進めていく。